

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	静岡県	事業実施主体	御殿場市	地域再生計画名	箱根外輪山魅力発信計画
計画期間	平成29年度～令和5年度	評価責任者	御殿場市都市建設部長、裾野市建設部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数	達成数					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	観光交流客の活性化	1,650万人	H26	1,680万人	R1	1,654万人	1,760万人	R5	1660万人	×	4	1	最終目標値を100万人下回っている。計画路線は未供用であるため、評価は難しい状況である。今後、本路線開通後に目標値の評価を調査する。
	指標2	林業の振興と森林整備の促進	62ha	H26	70ha	R1	24ha	80ha	R5	21ha	×	4	1	最終目標値を59ha下回っている。計画路線は未供用であるため、評価は難しい状況である。今後、本路線開通後に目標値の評価を調査する。
	指標3	観光産業の雇用創出	8,400人	H26	8,700人	R1	8,600人	9,400人	R5	8500人	×	/		最終目標値を900人下回っている。計画路線は未供用であるため、評価は難しい状況である。今後、本路線開通後に目標値の評価を調査する。
	指標4	林業の雇用創出	256人	H26	265人	R1	256人	282人	R5	710人	○			
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度(R1)	最終実績									
特別措置を適用して行う事業	市道0117号線整備事業		1,540m	0m	0m	本路線は新設道路であるため、部分開通が難しく計画路線全線が開通しないと一般車両が通行することが不可能であることから、最終実績は0mである。ただし、事業費ベースでの進捗率は72%であるため引き続き整備を進めていきたい。								
	林道高内1号線		1,994m	537m	1,979m	林道整備により造林・間伐等森林施業の作業に携わる車両等の通行が容易となったため、林業の活性化が図られた。								
その他の事業														
計画外で独自に実施した事業	観光ハブ都市推進事業		民間と行政が一体となって戦略的に観光施策を展開するための支援			観光施策の各種テーマごとのプロジェクトチームを設置し、滞留観光に資するための企画立案を行う。各プロジェクト間の連絡調整会議を設置し、相互の連携や新たな観光商品の開発等を行う。各プロジェクト合同の取り組みや、各プロジェクト立ち上げ時の調査・研究等の活動に活用している。								
	社会資本整備総合交付金事業		道路拡幅、歩道の設置など幹線道路の改良の推進			御殿場市都市計画マスタープランに定められた交流ゾーンに観光客を誘導するため、市道0114号線の幹線道路の道路拡幅、歩道の設置、新東名高速道路、東名高速道路スマートインター設置に伴うアクセス道路である市道0106号線の整備を進めた。								
	世界かんがい施設遺産「深良用水」保全活用事業		世界かんがい施設遺産に登録された深良用水の保全と観光資源としての活用			世界かんがい施設遺産に登録された、江戸時代に造られ、今も芦ノ湖の水を静岡県側に流している深良用水を地域の個性を表す景観資源として、適切に保全するとともに、広く内外に情報発信し、観光資源としての活用を図る。								
	箱根外輪山を観光席に富士山の眺望を活かした観光まちづくり事業		箱根外輪山の間伐、植樹転換、ハイキングコース整備等の推進			御殿場市では地方創生加速化交付金を活用して、箱根外輪山の森林資源を観光等に活かし地域活性化を図るため、地域住民と団体が協力して間伐、植樹転換、ハイキングコース整備等を行う。また、森林資源の新たな活用方法の創出のため、間伐材のチップ化を試行し、熱利用の実証実験を実施している。								
③評価方法	令和8年3月に御殿場市都市計画審議会の議題として最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。													
④事後評価の公表方法	御殿場市のホームページに掲載													
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生道整備推進交付金を活用し、市道整備と林道整備を一体的に行うことにより、広域観光ネットワークを構築、市街地への交通流入を抑制し、交通渋滞の緩和や森林へのアクセス向上を目的としている。数値目標について、本路線は新設道路であるため、部分開通が難しく計画路線全線が開通しないと一般車両が通行することが不可能であることから、評価が難しく数値目標の達成が厳しい状況である。													
⑥今後の方針等	本地域再生計画では、数値目標の実現が未達成である。これは本路線が未供用であることから、評価が難しい状況である。引き続き、他の交付金を活用し本路線の整備を推進するとともに、開通後に目標値の評価を実施していく。													